

# EUROPEAN PATENT OFFICE

## Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 2001191681  
PUBLICATION DATE : 17-07-01

APPLICATION DATE : 07-01-00  
APPLICATION NUMBER : 2000001476

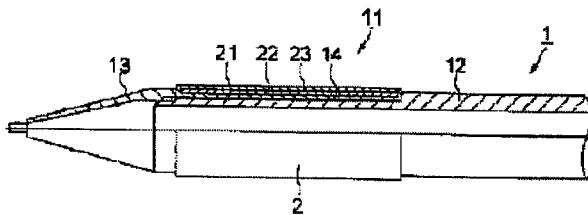
1

APPLICANT : TAISEI PLAS KK;

INVENTOR : NAGAKITA NOBUYUKI;

INT.CL. : B43K 3/00 B43K 23/008

TITLE : GRIP FOR WRITING UTENSIL



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a grip for a writing utensil excellent for a gripping feeling.

SOLUTION: This tubular grip 2 is installed on the grip portion 11 of the writing utensil 1 and has an innermost layer 21 made of a first material having a relatively higher hardness, an intermediate layer 22 made of a second material having a relatively lower hardness than that of the first material and an outermost layer 23 made of the first material. The first material and the second material are synthetic resin, synthetic rubber or natural rubber.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-191681

(P2001-191681A)

(43)公開日 平成13年7月17日 (2001.7.17)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

B 43 K 3/00  
23/008

識別記号

F I

テ-71-ト(参考)

B 43 K 3/00  
23/00

F  
B

審査請求 未請求 請求項の数5 OL (全 5 頁)

(21)出願番号 特願2000-1476(P2000-1476)

(22)出願日 平成12年1月7日 (2000.1.7)

特許法第65条第2項ただし書の規定により図面第5図の  
一部は不掲載とした。

(71)出願人 000206141

大成プラス株式会社

東京都中央区日本橋浜町1丁目11番8号

(72)発明者 永喜多 信行

東京都中央区日本橋本町1丁目1番9号

大成プラス株式会社内

(74)代理人 100097180

弁理士 前田 均 (外2名)

(54)【発明の名称】 筆記具用グリップ

(57)【要約】

【課題】握り感に優れた筆記具用グリップを提供する。

【解決手段】筆記具1の握り部分11に装着される筒状のグリップ2であって、相対的に高硬度の第1の材料からなる最内層21と、第1の材料よりも低硬度の第2の材料からなる中間層22と、第1の材料からなる最外層23とを有する。第1の材料および第2の材料は、合成樹脂、合成ゴムまたは天然ゴムである。

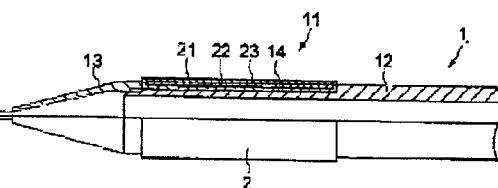


図 1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】筆記具の握り部分に装着される筒状のグリップであって、相対的に高硬度の第1の材料からなる最内層と、前記第1の材料よりも低硬度の第2の材料からなる中間層と、前記第1の材料からなる最外層とを有する筆記具用グリップ。

【請求項2】前記第1の材料および前記第2の材料は、合成樹脂、合成ゴムまたは天然ゴムである請求項1記載の筆記具用グリップ。

【請求項3】前記グリップは、前記最内層を構成する小径部と前記最外層を構成する大径部とが一体的に形成された筒状体の、前記小径部の外側に、前記中間層を設置したのち、前記大径部を前記小径部側へ折り返し、当該小径部と大径部とで前記中間層を挟み込んでなる請求項1または2記載の筆記具用グリップ。

【請求項4】前記グリップは、前記第1の材料からなる筒状の最内層と前記第1の材料からなる筒状の最外層との間に、前記第2の材料からなる中間層を挟み込んでなる請求項1または2記載の筆記具用グリップ。

【請求項5】筒状のグリップ本体と、前記グリップ本体の外表面から突出して文字、図形、記号を構成する、前記グリップ本体と同一硬度の材料からなる突出部と、を有する筆記具用グリップ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、シャープペンシル、ボールペン、鉛筆等の筆記具の握り部分に装着されるグリップに関する。

## 【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】この種のグリップとして、ゴムを円筒形状に成形してシャープペンシルの握り部分に装着したものが知られている。また、使用者に応じた握り易さおよびグリップ感をより高めるために硬度が異なる2種類の材料を部分的に融合させたものも知られている（たとえば、特開平9-169194号公報参照）。

【0003】しかしながら、後者のものであっても使用者の好みの構造を特定するまでは、それに応じた2種類の材料の配置を特定することができない。

【0004】本発明は、このような従来技術の問題点に鑑みてなされたものであり、握り感に優れた筆記具用グリップを提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】(1) 上記目的を達成するに、本発明の第1の観点によれば、筆記具の握り部分に装着される筒状のグリップであって、相対的に高硬度の第1の材料からなる最内層と、前記第1の材料よりも低硬度の第2の材料からなる中間層と、前記第1の材料からなる最外層とを有する筆記具用グリップが提供される。

【0006】本発明において、前記第1の材料および前記第2の材料は、合成樹脂、合成ゴムまたは天然ゴムであることがより好ましい。

【0007】本発明において、前記グリップを最内層、中間層および最外層の3層構造とするには、前記最内層を構成する小径部と前記最外層を構成する大径部とが一体的に形成された筒状体の、前記小径部の外側に、前記中間層を設置したのち、前記大径部を前記小径部側へ折り返し、当該小径部と大径部とで前記中間層を挟み込んで構成することができる。

【0008】また、これに代えて、前記第1の材料からなる筒状の最内層と前記第1の材料からなる筒状の最外層との間に、前記第2の材料からなる中間層を挟み込んで構成することもできる。

【0009】(2) また、上記目的を達成するために、本発明の第2の観点によれば、筒状のグリップ本体と、前記グリップ本体の外表面から突出して文字、図形、記号を構成する、前記グリップ本体と同一硬度の材料からなる突出部と、を有する筆記具用グリップが提供される。

【0010】なお、本明細書でいう筒状とは、円筒状の他に多角形筒状のものも含まれる趣旨である。

## 【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。図1は本発明の筆記具用グリップの実施形態を示す半断面図、図2は図1に示すグリップの拡大断面図である。

【0012】本実施形態のグリップ2は、シャープペンシル1などの筆記具の握り部分11に挿入することで装着されるもので、シャーベン本体12の先端に螺合されたキャップ13を取り外すことで、当該シャーベン本体12の先端から挿入することができる。そのための段部14が当該シャーベン本体12の先端に形成されている。

【0013】なお、以下の実施形態では、筆記具としてシャープペンシル1を一例として挙げて本発明のグリップ2を説明するが、本発明のグリップ2は、シャープペンシル1に何ら限定されず、ボールペン、万年筆、インクペン、鉛筆等々、全ての筆記具に適用することができる。

【0014】本実施形態のグリップ2は、図2に示すように三層構造とされており、シャープペンシル1の本体12の外表面に当接する最内層21と、この最内層21の外表面に形成された中間層22と、この中間層22の外表面に形成された最外層23とからなる。なお、以下の実施形態では、こうした3層構造を例に挙げて本発明を説明するが、本発明の筆記具用グリップ2は、3層構造に限定されず4層以上の構造としても良い。

【0015】本例のグリップ2は、最内層21と最外層23とが同一硬度の材質（以下、第1の材料ともい

う。)とされ、これに対して中間層22がこれより低硬度の材質(以下、第2の材料ともいう。)とされている。これら第1の材料と第2の材料とは、異種材質である必要はなく、同一材質で硬度を相違させても良い。第1の材料および第2の材料としては、天然ゴム、合成ゴム、各種合成樹脂を用いることができる。

【0016】比較的高硬度の最内層21を設けることでシャーペン本体12への装着作業性が高くなる。すなわち、キャップ13を取り外されたシャーペン本体12の先端からグリップ2を挿入する際に、当該グリップ2の内面が柔らかいと挿入するにつれグリップ2の先頭端が内側に巻き込んだりするおそれがあるが、本実施形態のように最内層21を高硬度の材料で形成することで剛性が高まり、こうした巻き込みを防止することができる。

【0017】しかも、中間層22は低硬度の材料から構成されているので、ペンを強く握りがちな人でも握り感が向上し、疲れを軽減することができる。さらに最外層23は高硬度の材料から構成されているので、低硬度の材料から構成した場合に比べてヨコヨコすることがなく、指の触感が高まる。

【0018】このような握り感に優れた本発明のグリップは以下のようにして製造することができる。図3(A)乃至(C)は本発明の筆記具用グリップの製造方法を示す断面図、図4は他の製造方法を示す断面図である。

【0019】まず、図3に示す製造方法の実施形態では、相対的に高硬度の第1の材料により同図(A)に示す筒状体26を成形する。この筒状体26は、最終的に最内層21を構成する小径部24と、最終的に最外層23を構成する大径部25とが同図に示すように一体的に形成されてなる。また、最終的に中間層22を構成する部材27を別途成形しておき、同図(B)に示すように筒状体26の小径部24に部材27を挿入または巻き、次いで同図に示すように大径部25の右端を小径部24側へ折り返すことで、同図(C)に示すように小径部24と大径部25との間に部材27を挟み込む。その後、熱融着、超音波接着、接着剤による接着、あるいはゴム材料であれば二次加硫を行ったり、または別バーツにて接合したりする。これにより、最内層21、中間層22および最外層23の三層構造とされたグリップ2を得ることができる。

【0020】これに対して、図4に示す製造方法の実施形態では、最終的に最内層21を構成する筒状体28と、同じく最終的に最外層23を構成する筒状体29と、最終的に中間層22を構成する部材27(図3に示すものと同様のもので良い。)とをそれぞれ成形しておき、これらを互いに挿入して組み立て、その後、熱融着、超音波接着、接着剤による接着、あるいはゴム材料であれば二次加硫を行ったり、または別バーツにて接合

したりする。これにより容易に本発明のグリップ2を得ることができる。

【0021】このように、本実施形態のグリップは、握り感に優れるだけでなく、その製造もさわめて容易であり、したがって廉価なグリップを提供することができる。

【0022】なお、中間層22は筒状体に限定されず、握り感に応じて部分的に中間層を設けても良い。この場合には最内層21および/または最外層23が部分的に(中間層22が存在しない部分)接合することになるので、これら最内層21や最外層23の肉厚を部分的に相違させておくことが望ましい。

【0023】次に第2の発明に係る筆記具用グリップについて説明する。図5(A)は第2の発明に係る筆記具用グリップの実施形態を示す斜視図、同図(B)はB-B線に沿う断面図である。

【0024】本実施形態のグリップ2は、円筒状に成形されたグリップ本体2aと、このグリップ本体2aの外表面に設けられた突出部2bとから構成されている。グリップ本体2aは、たとえばゴムや合成樹脂から成形され、突出部2bもゴムや合成樹脂から成形されている。これらグリップ本体2aと突出部2bとをそれぞれ構成する材料は、同一またはほぼ同一の硬度とされている。

【0025】本実施形態の突出部2bは、文字、図形または記号で構成されて、意匠的または商標的なものとして機能すると同時に、突出部2bがグリップ本体2aの外表面から突出しているので、使用者が握ったときに当該突出部2bが引っ掛かりとなって滑り止め効果をも発揮する。

【0026】ちなみに、こうしたグリップ2の製造方法の一例として、まず突出部2bに相当する凹型にゴム材料を流し込み、その表面をスキージにより平坦化したのち、この上からグリップ本体2aに相当する型にゴム材料を流し込み、グリップ本体2aと突出部2bとを同時に加硫する。

【0027】なお、以上説明した実施形態は、本発明の理解を容易にするために記載されたものであって、本発明を限定するため記載されたものではない。したがって、上記の実施形態に開示された各要素は、本発明の技術的範囲に属する全ての設計変更や均等物をも含む趣旨である。

【0028】

【発明の効果】第1の発明によれば、握り感が向上して疲れを軽減できるとともに指の触感も向上する。これに加えて、筆記具への装着作業性も著しく向上する。

【0029】また第2の発明によれば、意匠的または商標的な機能と滑り止め機能とが発揮される。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の筆記具用グリップの実施形態を示す半断面図である。

【図2】図1に示すグリップの拡大断面図である。

【図3】本発明の筆記具用グリップの製造方法を示す断面図である。

【図4】本発明の筆記具用グリップの他の製造方法を示す断面図である。

【図5】本発明の筆記具用グリップの他の実施形態を示す(A)斜視図および(B)断面図である。

【符号の説明】

1…シャーペンシル(筆記具)

11…握り部分

2…グリップ

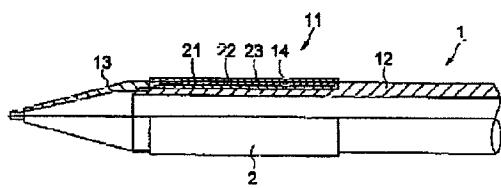
21…最内層

22…中間層

23…最外層

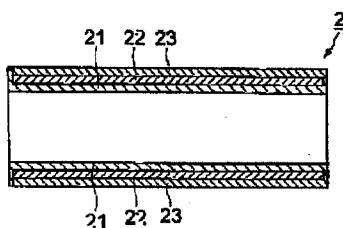
【図1】

図1



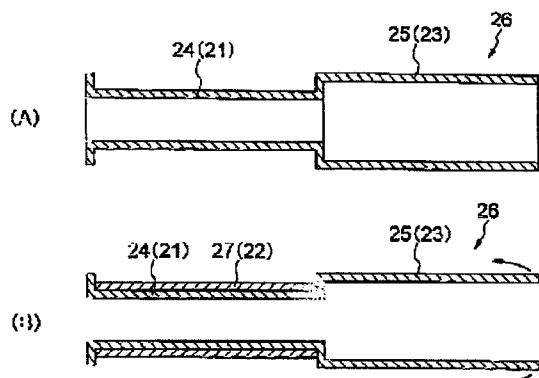
【図2】

図2



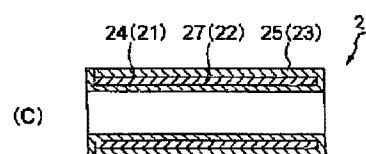
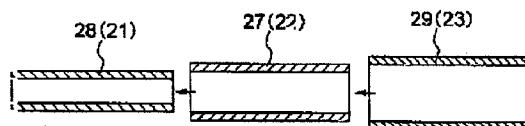
【図3】

図3



【図4】

図4



【図5】

21 5

